

---

# 全国専門学校情報教育協会

Institute for Vocational College, Information Technology Education

---

## 第12回定例総会 資料

平成20年6月13日 於：東京／主婦会館 プラザエフ

- 第1号議案 平成19年度 事業報告
- 第2号議案 平成19年度 収支決算報告
- 第3号議案 会則一部改正について
- 第4号議案 平成20年度 事業計画案
- 第5号議案 平成20年度 収支予算案
- 第6号議案 任期満了による役員改選について

## 目 次

第1号議案 平成19年度事業報告 .....	2
1. 総会 .....	2
2. 理事会 .....	2
3. 常任理事会 .....	2
4. 委員会 .....	3
(1) 常置委員会 .....	3
① 財務委員会 .....	3
② 研修委員会 .....	3
③ 調査委員会 .....	5
④ IT環境整備研究委員会 .....	6
⑤ ロボット委員会 .....	6
⑥ ビジネスプロデューズコンペティション運営委員会 .....	9
(2) 特別委員会 .....	10
① 高度情報教育研究委員会 .....	10
5. その他の事業 .....	11
第2号議案 平成19年度 収支決算報告 .....	12
第3号議案 会則一部改正について .....	16
第4号議案 平成20年度 事業計画案 .....	17
1. 総会 .....	17
2. 理事会 .....	17
3. 常任理事会 .....	18
4. 委員会 .....	18
(1) 常置委員会 .....	18
① 財務委員会 .....	18
② 研修委員会 .....	18
③ 調査委員会 .....	19
④ ロボット委員会 .....	19
⑤ ビジネスプロデューズコンペティション運営委員会 .....	19
(2) 特別委員会 .....	20
① IT人材育成研究委員会（仮称） .....	20
5. その他の事業 .....	20
第5号議案 平成20年度 収支予算案 .....	21
第6号議案 任期満了による役員改選について .....	22

## 第1号議案 平成19年度事業報告

### 1. 総会

平成19年度定例総会（第11回）は6月20日にホテルメトロポリタン エドモントにて開催された。検討議案及びそのポイントは以下のとおり。

#### 第1号議案 平成18年度事業報告

- ・本会の社団法人化について検討。
- ・情報モラル検定試験の実施について検討。
- ・その他各事業についての説明。

#### 第2号議案 平成18年度収支決算報告

#### 第3号議案 本会の法人化について

本会を法人化し、組織を強化することにより、検定試験の実施、文科省委託事業の直接受託などを実現させたい旨吉田会長より説明。

#### 第4号議案 組織改正について

吉田会長より、協会活動の発展と法人化への布石として、組織体制ならびに事業推進体制強化のための組織改正に関する提案があった。要点は以下の通り。

- ・幹事会組織を理事会組織とする。
- ・専務理事を置く。
- ・事業委員会を常置委員会として位置づける。
- ・委員任期を役員と同期させて2年とする。
- ・特別委員会を設置することが出来る。

#### 第5号議案 会則一部改正について

#### 第6号議案 平成19年度事業計画案

#### 第7号議案 平成19年度収支予算案

### 2. 理事会

平成19年度は東京にて年間2回の理事会を開催し、本会の運営方針の決定や予算の執行管理について審議した。

平成19年度は研修や調査研究など通常の事業に加え、本会の法人化に関する検討を継続的に行った。

### 3. 常任理事会

常任理事会は、正副理事長、専務理事、各委員会の長をもって構成し、それぞれの委員会で検討されている事業を調整すること、理事会との接点となることを目的として設置され、平成19年度は東京にて2回開催した。

各委員会で実施された事業の目的や内容の調整を図ることや、本会法人化に関する事項を検討し、理事会への提案事項として取りまとめた。

## 4. 委員会

### (1) 常置委員会

#### ① 財務委員会

本会の予算編成並びに決算、財務管理、またその他財務に関する強化を図るため今年度より新たに委員会として設置した。今年度は2回の委員会を開催。新たに設置された委員会のため、現状では予算・決算の方針を理解し、今後必要とされる諸規定の選定作業を暫時検討中である。

#### ② 研修委員会

研修委員会は、会員校の教育内容の充実、学校の安全な運営、募集・広報活動の活性化等を図るための各種研修の立案と運営を行った。平成19年度は東京で8回、仙台で1回、計9回の会合を開催した。

### ■研修会開催状況 (P.4 参照)

#### a. 管理者研修

総会当日に、管理職・募集・広報担当者等を対象とした管理者研修を実施。

#### b. 協会オリジナル教員研修

教員向け研修は7研修(運営系4、IT技術系3)実施。夏休み期間中に3研修、秋期研修として10～11月に4研修を実施。

#### c. 文部科学省委託事業と連携した研修

会員校が受託した文部科学省委託事業の実証研修・説明会(7研修)、の募集サポートを行った。

### ■専修学校フォーラムについて (P.5 参照)

本会会員および専修学校関係者を対象として、教育情報、経営情報、教育トレンドを提供することを目的として専修学校フォーラムを開催。平成19年度のテーマは『創・拓・新 大学全入時代！ 専門学校の競争力とは？』。

日 程：平成20年3月3日(月)～4日(火)

会 場：ホテルメトロポリタンエドモント

参加者：271名

後 援：経済産業省

協 力：財団法人専修学校教育振興会、全国専修学校各種学校総連合会  
全国学校法人立専門学校協会

■平成19年度 実施研修一覧

(1) 情報協会オリジナル研修

① 管理者研修

A=運営系、B=IT技術系

No	日時	研修名	講師	会場	区分	分類	募集人数	参加人数	募集率	満足度
1	6/20	「学生募集で勝つための新インターネット技術」/「変貌する大学！ 数字で見る大学入試改革の推移と現状」	小島 英輝 稲垣 靖	ホテルメトロポリタンエドモント	A	管理職・募集・広報	30	66	220.0%	96.2%

② 教員向け研修

2	7/30 ～7/31	退学者を減らすための、学生指導に必要なカウンセリング知識（宿泊研修）	石川 悦子	晴海グランドホテル	A	学生指導	20	30	150.0%	70.0%
3	8/2 ～8/3	留学生受入指南～募集、受入環境、トラブル解決等のポイント～（宿泊研修）	鈴木 功 ほか	川崎グランドホテル	A	学生指導・募集	20	17	85.0%	86.7%
4	8/7 ～8/8	組込み技術指導者育成セミナー	坂巻 佳寿美 ほか	日本工学院専門学校	B	IT技術	20	17	85.0%	88.2%
5	10/25 ～10/26	戦略的な学生募集を行うためのマーケティング知識(宿泊研修)	堀江 隆史	晴海グランドホテル	A	募集・広報	20	16	80.0%	81.3%
6	11/2 ～11/3	仕事がかどる！ パソコンスキルアップセミナー	佐々木 康子 海野 晴博	日本電子専門学校	B	IT技術	20	7	35.0%	66.7%
7	11/23 ～11/24	Flex II で作るWeb2.0セミナー	小島 英輝 海野 晴博	日本電子専門学校	B	IT技術	20	10	50.0%	55.6%
8	11/26	金沢工業大学改革事例視察	四宮 啓雄 ほか	金沢工業大学	A	学校運営・募集・広報	20	32	160.0%	96.4%
教員向け研修計							140	129	92.1%	81.0%

③ 専修学校フォーラム

9	H20 3/3・4	専修学校フォーラム2008	—	ホテルメトロポリタンエドモント	総合	総合	200	271	135.5%	81.7%
---	--------------	---------------	---	-----------------	----	----	-----	-----	--------	-------

情報協会オリジナル研修計

合計							370	466	125.9%	83.0%
----	--	--	--	--	--	--	-----	-----	--------	-------

\* 協会オリジナル研修の満足度は受講者アンケート回答のうち『目的を達成した者』の比率。

(2) 文部科学省委託事業説明会および研修

No	日時	研修名	講師	会場	事業分類	募集人数	参加人数	募集率
1	10/15 ～10/16	グループワークを学ぶ基礎研修	杉山 郁子 林 芳孝	幕張セミナーハウス	重点支援	18	18	100.0%
2	12/18	XMLデータベース教育教材 企業・学校説明会	小野 雅史 ほか	日本電子専門学校	重点支援	50	27	54.0%
3	12/25 ～12/26	XMLデータベース教育教材 教員向け研修	木村 達哉	日本電子専門学校	重点支援	20	15	75.0%
4	H20 1/9	起業家育成教員研修会	菅野 敏明 松澤 斉之	アルカディア市ヶ谷	重点支援	30	24	80.0%
5	H20 1/27 ～1/29	グループワークを学ぶ実践研修	杉山 郁子 林 芳孝	ロイヤルパークホテル高松	重点支援	30	26	86.7%
6	H20 2/1	リスクマネジメント教員研修会	濱地 良行	都市センターホテル	重点支援	30	34	113.3%
7	H20 2/19	音声技術ロボットシステム研修会	清水 太郎 ほか	ベルサール八重洲	重点支援	20	17	85.0%
委託事業研修計						198	161	81.3%

総合計

総合計						568	627	110.4%
-----	--	--	--	--	--	-----	-----	--------

■専修学校フォーラム 2008 参加状況

参加申込区分

(参考:フォーラム2007)

区分	人数	%	対前年比	人数	%
会員校	49	18.1%	111.4%	44	18.2%
賛助会員	13	4.8%	433.3%	3	1.2%
一般(未会員校・企業)	60	22.1%	157.9%	38	15.7%
講師・委託事業発表関係者	149	55.0%	94.9%	157	64.9%
	271	100.0%	112.0%	242	100.0%

参加セッション

区分	人数	%
1日目 全体会①～⑤	212	78.2%
2日目 全体会⑩～⑳、パネルディスカッション	242	89.3%
分科会		
第1		
⑥介護福祉ロボットエンジニア育成	24	8.9%
⑦ロボット科4年制課程高度教育	19	7.0%
⑧XMLデータベース教育教材の開発	27	10.0%
第2		
⑨自己発見・自己ブランディングe-learning	57	21.0%
⑩ライブ型e-learning手法を活用した教授法	49	18.1%
⑪憧れをやる気に進化させるライブ型e-learning	46	17.0%
第3		
⑫理容・美容師再チャレンジ教育プログラム	22	8.1%
⑬5S活動を中心とした「規律・躰」教育	56	20.7%
⑭ネットショップ運営人材養成プログラム	36	13.3%
第4		
⑮サービス介助+電子カルテ教育による就職支援	19	7.0%
⑯ジーンズアパレル業界人材育成に	15	5.5%
⑰社会福祉士養成課程新設教育プログラム開発	30	11.1%
懇親会	104	38.4%
参加者総数	271	100.0%

注)番号はプログラム上の整理No。  
%の母数は参加者総数(=271)。  
分科会人数は申込時の希望に基づく推定値。

参加団体

(参考:フォーラム2007)

区分	団体数	%	対前年比	団体数	%
専門学校	95	62.9%	102.2%	93	66.9%
企業	36	23.8%	105.9%	34	24.5%
大学・教育関連団体・その他	20	13.2%	166.7%	12	8.6%
計	151	100.0%	108.6%	139	100.0%

③ 調査委員会

平成19年度、本委員会は以下の調査を行った。なお、詳細な説明に関しては添付資料を基に総会に追って開催される研修会で説明する。

■大学に対する専門学校の優位性調査

目的：本会会員が大学と専門学校を比較した際にどのようなところに優位性を感じているのかを明確化すること。

【実施状況】

実施日：2007年12月

送付数：117校

回答数：73校161名

回答率：62%

#### ■金沢工業大学の教育改革調査

目的：日本の中で最も教育改革が進んでいるといわれる金沢工業大学を視察し、その改革内容を調査する。また調査終了後に視察内容を取りまとめ会員に報告し、会員が教育改革を行う際の一助となるような情報を提供した。

#### ④ IT環境整備研究委員会

平成19年度は産学連携の強化をはかることとし、行政の持つ研究事業等の情報を収集し会員校に公開すること、賛助会員企業と学校とのパイプを太くすることを方針として活動を行った。

#### ■具体的な活動内容

##### a. 各省庁、自治体などから定期的に公開される研究事業等の情報収集

基盤的研究開発助成、ふるさと産業再生、地域産官学交流促進、起業家育成、といったキーワードで、地方公共団体よりインターネット上に公開されている情報の収集を行うにとどまっている。

##### b. 産学連携共同研究事業

以下のスケジュールでの実施を検討した。

9月20日 賛助会員企業向け説明会

(於：日本児童教育専門学校 参加者：企業7社、学校6名)

～10月12日 企業からの提案受付

10月16日 プラン募集状況、会員校向け告知リリースの確認

～11月20日 参加会員校募集

11月19日 会員校向け説明会

11月20日～ 枠組みのできあがったプランから順次活動開始

#### ⑤ ロボット委員会

「第16回全国専門学校ロボット競技会」企画・運営を行った。詳細は以下の通り。

#### ■第16回全国専門学校ロボット競技会

日程：平成19年12月15日（土）、16日（日）

会場：工学院大学 アトリウム

主催：全国専門学校情報教育協会／財団法人 専修学校教育振興会

後援：文部科学省／経済産業省

日本経済新聞社／テレビ東京／日経BP社／読売新聞社

協力：専門学校新聞社

競技：○有線型ロボット対戦競技、○自律型ロボット対戦競技（ソフトウェア部門）、

○自律型ロボット対戦競技（ハードウェア部門）、○2足歩行ロボット競技

■参加校・参加部門（チーム数）一覧（14校 69チーム）

No.	学 校 名	自律型		有線型	2足
		ソフト	ハード		
1	日本電子専門学校(東京)	2	2		2
2	大阪工業技術専門学校(大阪)		2	2	
3	中央工科デザイン専門学校(群馬)		2		
4	浜松情報専門学校(静岡)	6	2	2	1
5	日本工学院八王子専門学校(東京)	2	2	2	2
6	名古屋工学院専門学校(愛知)	2	2	2	2
7	エプソン情報科学院専門学校(長野)	4		1	
8	中日本航空専門学校(岐阜)	1	1	3	
9	越生工業技術専門学校(埼玉)	2	2		1
10	東京電子専門学校(東京)	3	2		2
11	情報科学専門学校 新横浜校(神奈川)	1			1
12	中部大学技術医療専門学校(愛知)		2		
13	東日本デザイン&コンピュータ専門学校(群馬)	1	1		1
14	鹿児島ハイテク専門学校(鹿児島)			1	
合 計(69 チーム)		24	20	13	12

(エントリー順)

■協賛企業（五十音順） 10社

株式会社 エヌアイデイ

株式会社 ガリバー

研友社印刷株式会社

廣告社株式会社

株式会社 JSコーポレーション

株式会社 昭栄広報

株式会社 タレントデータバンク

株式会社 ブレイズ・ネットワーク

株式会社 ボーンデジタル

株式会社 ライセンスアカデミー

■協賛専門学校（五十音順） 9校

大阪工業技術専門学校

学校法人 工学院大学

東京電子専門学校

東放学園専門学校

名古屋工学院専門学校

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

日本電子専門学校

学校法人 吉田学園

■第16回全国専門学校ロボット競技会 結果一覧

順位	学校名	ロボット名	ロボット名ふりがな
<b>自律型ロボット対戦競技 ソフトウェア部門</b>			
優勝	日本工学院八王子専門学校	まいん	まいん
準優勝	情報科学専門学校 新横浜校	新横Rover	しんよころーばー
第3位	日本工学院八王子専門学校	AI-ST	えいあい えすてい
第3位	日本電子専門学校	MASAMITI	まさみち
<b>自律型ロボット対戦競技 ハードウェア部門</b>			
優勝	大阪工業技術専門学校	たこやき王子	たこやきおおじ
準優勝	中央工科デザイン専門学校	赤城山	あかぎやま
第3位	日本工学院八王子専門学校	NEEC-16	えぬいーいーしーじゅうろく
第3位	浜松情報専門学校	パターンオレンジ	ぱたーんおれんじ
<b>有線型ロボット対戦競技</b>			
優勝	浜松情報専門学校	おいでやす〜♪	おいでやす〜おんぷ
準優勝	日本工学院八王子専門学校	ハチ工	はちこう
第3位	日本工学院八王子専門学校	Prometheus	ぷろめてうす
第3位	浜松情報専門学校	SIはまちゃん	えすあいはまちゃん
<b>2足歩行ロボット部門</b>			
優勝	日本電子専門学校	Swimmer	すいまー
準優勝	日本電子専門学校	KHR-ぱー	けいえいちあーる ぱ
第3位	日本工学院八王子専門学校	躍進 序章	やくしん じょしょう
第4位	東日本デザイン&コンピュータ専門学校	HDC-2	えいちでいしい に
優秀 ソフトウェア賞	エプソン情報科学専門学校	THE LOSE	じ ろーず
優秀 ハードウェア賞	東日本デザイン&コンピュータ専門学校	HDC-1	えいちでいしい いち
優秀 メカニック賞	中日本航空専門学校	とびます☆とびます	とびます とびます
優秀 ヒューマノイド賞	浜松情報専門学校	だもんで番号	だもんでいちごう
ロボコム賞	鹿児島ハイテク専門学校	GUNTER-零	がんだーれい
団体優勝	日本工学院八王子専門学校		

## ⑥ ビジネスプロデュースコンペティション運営委員会

「第4回 ビジネスプロデュースコンペティション（BPC大会）」の企画・運営を行った。詳細は以下の通り。なお、本年度は特別審査員として、日本ベンチャー学会理事 大阪大学の金井一頼教授にご参画いただいた。

### ■第4回大会開催実績

- ・ビジネスプラン募集期間：平成19年11月21日～平成20年1月18日
- ・一次審査（書類選考）：平成20年1月23日（水）
- ・二次審査（BPC大会）：平成20年2月17日（日）

※一次審査を通過したビジネスプランのプレゼンテーション

会場 東京工科専門学校 B1 テラホール

- ・応募実績：16校 70プラン（昨年度実績 11校 53プラン）
- ・一次審査通過：8校 10プラン（昨年度実績 11校 14プラン）
- ・後援：経済産業省（後援名義使用許可、経済産業政策局長賞交付）  
ドリームゲート（後援名義使用許可）

### ■BPC参加校（16校）

国際理容美容専門学校	静岡産業技術専門学校
情報科学専門学校 横浜西口校	専門学校岡山情報ビジネス学院
広島外語専門学校	東北電子専門学校
麻生情報ビジネス専門学校	岩谷学園テクノビジネス専門学校
沼津情報専門学校	日本電子専門学校
上田安子服飾専門学校	大阪芸術大学附属大阪美術専門学校
国際デザイン・ビューティカレッジ	中国デザイン専門学校
トライデントコンピュータ専門学校 大阪	大阪総合デザイン専門学校

### ■結果

#### ◆グランプリ

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

『株式会社エブリリンクが運営するクロスメディア手法による  
旅行支援事業の提案』

#### ◆準グランプリ

トライデントコンピュータ専門学校 大阪

『「モラルハザードをモラルマイルで救う！」日本のモラル低下を防ぎ、  
生活道徳を楽しく習得する。』

#### ◆アイデア賞

国際デザインビューティカレッジ

『コスプレ愛好家』

◆マーケティング賞

静岡産業技術専門学校

『恋人や友人、親兄弟へ贈る、ペア用品専門の雑貨屋とHPによる  
ペア商品のネットショッピング運営』

◆プレゼン賞

国際理容美容専門学校

『学生エステ』

(2) 特別委員会

① 高度情報教育研究委員会

■第1回高度情報教育研究委員会

日 時：平成19年10月30日（火） 13：00～17：00

日 時：日本電子専門学校7号館10階

出席者：中央情報専門学校／岡本比呂志 日本電子専門学校／古賀稔邦  
東北電子専門学校／佐藤公一 神戸電子専門学校／福岡壯治  
全専各連／菊田薫 全専情協／飯塚正成

議 題：本委員会設置に関する目的、内容、組織、予算の説明

■第2回高度情報教育研究委員会

日 時：平成19年12月7日（金） 15：00～17：00

日 時：日本電子専門学校7号館10階

出席者：中央情報専門学校／岡本比呂志 日本電子専門学校／古賀稔邦  
東北電子専門学校／佐藤公一 神戸電子専門学校／福岡壯治  
全専各連／菊田薫 全専情協／飯塚正成

ゲスト：（独）情報処理推進機構 情報処理技術者試験センター 副センター長／林佐利  
（独）情報処理推進機構 情報処理技術者試験センター グループリーダー／金沢信

議 題：新試験制度に対する説明、エントリー試験について、一部免除制度について  
C B T試験の導入について

■第3回高度情報教育研究委員会

日 時：平成20年2月6日（水） 15：00～17：00

場 所：日本電子専門学校7号館10階

出席者：中央情報専門学校／岡本比呂志 日本電子専門学校／古賀稔邦  
東北電子専門学校／佐藤公一 神戸電子専門学校／福岡壯治  
全専各連／菊田薫 全専情協／飯塚正成

ゲスト：早稲田大学 理工学術院 笥 捷彦 先生

議 題：大学での情報教育、J O 7に関する解説

## 5. その他の事業

### (1) 協会ホームページにおける加盟校学校案内パンフレット請求サービスの実施

情報協会ホームページ (<http://www.invite.gr.jp/>) にて加盟校資料請求サービスを引き続き実施中である。会員校に対する無料サービスの一環で、協会ホームページ来訪者が、希望する会員校の学校案内パンフレットを一括請求できるシステム。引き続き、利用者数を増やしていくための内容の充実、PRに努めていく。

### (2) インターネットを利用した各種情報の提供

本会ホームページを利用した各種PR活動も引き続き行っている。研修会や委員会活動報告、会員校イベント情報をはじめ、賛助会員企業や各種教育関連団体などから寄せられた情報のタイムリーな発信に努めており、平成19年度は63件のトピックス(ニュース)を掲載した。

また、本会賛助会員企業のイベントや製品等をご紹介するため、トップページの上部に最大6社までご利用いただけるバナースペースを設置、ご活用頂いている。

### (3) インターネットメールによる各種情報の提供

本会ホームページ掲載情報の更新と合わせ、インターネットメールによる情報提供を行っている。対象者は本会会員校の教職員ならびに、教員研修会等参加者のうち情報配信を希望した方など。平成19年度は33件のメールニュースを発行し、本会が行う研修会の募集情報などのほか、会員校、賛助会員から寄せられたイベントやキャンペーン情報等の配信を行った。

### (4) 文部科学省委託事業との連携

本協会会員校が実施した、平成19年度文部科学省委託事業「専修学校教育重点支援プラン」「専修学校を活用した再チャレンジ支援事業(若者の再チャレンジ支援プログラム/女性の再チャレンジ支援)」の一部において、教材開発や実証研修、成果発表会等で連携を行った。

第2号議案 平成19年度 収支決算報告

平成19年度 収支計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:円)

勘定科目	19年度予算額	19年度決算額	増減額	備考
(収入の部)				
会費収入	( 16,300,000 )	( 14,540,000 )	( 1,760,000 )	
年度会費収入	13,000,000	11,650,000	1,350,000	
新規入会金収入	300,000	250,000	50,000	
賛助会費収入	3,000,000	2,640,000	360,000	
研修会参加費等収入	( 4,515,000 )	( 5,350,100 )	( △ 835,100 )	
研修会参加費等収入	4,515,000	5,350,100	△ 835,100	
イベント開催協力金	( 6,870,000 )	( 5,930,000 )	( 940,000 )	
ロボット競技会開催費収入	6,870,000	5,930,000	940,000	
雑収入	( 50,000 )	( 113,635 )	( △ 63,635 )	
雑収入	50,000	113,635	△ 63,635	
当期収入合計(A)	( 27,735,000 )	( 25,933,735 )	( 1,801,265 )	
前期繰越収支差額	( 20,727,659 )	( 20,727,659 )	( 0 )	
収入合計(B)	( 48,462,659 )	( 46,661,394 )	( 1,801,265 )	
(支出の部)				
会議費	( 5,314,000 )	( 3,631,462 )	( 1,682,538 )	
総会運営費	360,000	271,918	88,082	
役員会運営費	1,734,000	1,300,459	433,541	
委員会等運営費	3,020,000	1,859,085	1,160,915	
部会費	200,000	200,000	0	
事業費	( 5,026,000 )	( 4,832,221 )	( 193,779 )	
研修会等事業費	3,047,000	3,855,678	△ 808,678	
調査研究費	574,000	318,986	255,014	
広報活動費	805,000	552,557	252,443	
会員加入促進費	600,000	105,000	495,000	
イベント開催費	( 8,553,000 )	( 4,835,076 )	( 3,717,924 )	
ロボットコンテスト開催費	6,870,000	4,607,664	2,262,336	
ビジネスプロデュースコンハ <sup>®</sup> 開催費	1,683,000	227,412	1,455,588	
事務委託費	( 11,000,000 )	( 11,000,000 )	( 0 )	
事務委託費	11,000,000	11,000,000	0	
雑費	( 50,000 )	( 95,874 )	( △ 45,874 )	
雑費	50,000	95,874	△ 45,874	
予備費	( 19,659 )	( 0 )	( 19,659 )	
予備費	19,659	0	19,659	
当期支出合計(C)	29,962,659	24,394,633	5,568,026	
当期収支差額(A)-(C)	△ 2,227,659	1,539,102	△ 3,766,761	
次期繰越収支差額(B)-(C)	18,500,000	22,266,761	△ 3,766,761	

## 第16回 全国専門学校ロボット競技会会計報告書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日)

(単位:円)

### 収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差異	備考
競技会参加費	700,000	690,000	10,000	
協賛金	3,370,000	2,740,000	630,000	
開催協力金	2,800,000	2,500,000	300,000	
収入合計	6,870,000	5,930,000	940,000	

### 支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差異	備考
会場等設営費	2,470,000	1,799,333	670,667	
大会運営費	1,186,000	456,758	729,242	
印刷費	350,000	0	350,000	
通信費	94,000	59,404	34,596	
商品費	183,000	187,352	△ 4,352	
大会記録費	100,000	0	100,000	
会議費	688,000	278,262	409,738	
人件費	539,000	566,555	△ 27,555	
事務局運営費	1,260,000	1,260,000	0	
支出合計	6,870,000	4,607,664	2,262,336	
情報会計繰越金	0	1,322,336	△ 1,322,336	

## 平成19年度 財産目録

平成20年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額
<b>資産の部</b>	
流動資産	
1. 現金預金	
現金 現金手許有高	151,345
普通預金 三菱東京UFJ銀行:東中野支店(0948013)	16,841,397
定期預金 三菱東京UFJ銀行:東中野支店(0948013)	5,000,000
2. 未収入金	504,000
資 産 合 計	22,496,742
<b>負債の部</b>	
流動負債	
1. 未 払 金	
(株)ゴーフィールド サーバ費用、レンタル料	229,981
負 債 合 計	229,981
正 味 財 産	22,266,761

# 監 査 報 告 書

全国専門学校情報教育協会

理事長 吉 田 松 雄 殿

私たちは、全国専門学校情報教育協会の平成19年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）における収支計算書、財産目録、諸証票書類ならびに同事業年度の理事の業務状況について監査を実施した。

その結果、財務諸表等は協会の収支及び財産の状況を適正に表示しているものと認めた。

また、理事の業務執行状況も適正であると認めた。

平成20年4月21日

全国専門学校情報教育協会

監 事 西 沢 正 樹 ㊞

監 事 菅 原 一 博 ㊞

### 第3号議案 会則一部改正について

旧インターネット教育協議会（VIC）運営委員で構成された「IT環境整備研究委員会」は、産学連携の推進とIT関連研修の企画という役割を担っていたが、本会とVICの事業統合という所期の役割は終えていることから、平成19年度で一旦終了させることとした。

これに伴い、会則の一部改正を行う。改正条文は下表参照。

現行（旧）	改正案（新）
(委員会) 第28条 本会に常置委員会として、財務委員会、研修委員会、調査委員会、 <b>IT環境整備研究委員会</b> 、ロボット委員会、ビジネスプロデュースコンペティション運営委員会を設置する。	(委員会) 第28条 本会に常置委員会として、財務委員会、研修委員会、調査委員会、ロボット委員会、ビジネスプロデュースコンペティション運営委員会を設置する。

## 第4号議案 平成20年度 事業計画案

### ■平成20年度事業内容

#### 1. 総会

平成20年度総会（第12回）は、平成20年6月13日（金）14時から、東京・主婦会館 プラザエフにて開催する。議案は以下の通り。

- |       |                 |
|-------|-----------------|
| 第1号議案 | 平成19年度 事業報告     |
| 第2号議案 | 平成19年度 収支決算報告   |
| 第3号議案 | 会則一部改正について      |
| 第4号議案 | 平成20年度 事業計画案    |
| 第5号議案 | 平成20年度 収支予算案    |
| 第6号議案 | 任期満了による役員改選について |

#### 2. 理事会

総会において決議された本会の事業を円滑に執行するために、年間3回程度の理事会を開催する。なお、理事会で審議する主な事項は以下の通り。

##### (1) 本会の法人化について

本会を法人化することによるメリットやデメリットを明確にし、法人化の方針を検討する。また、本会の体質強化のための体制整備を行う。

##### (2) 情報モラル試験（仮称）の事業化について

情報モラル試験プレテストは、社会的ニーズも高く、将来協会の柱になり得る有望な事業として引き続き研究開発を進め、試験の実施や問題の作り込みについて検討・調整を行う。本年度は、指導教員養成と試験実施体制の整備に焦点を当てて実施、検討を進めていく。

##### (3) 研修・調査・イベント等の事業

本会が行っている事業は以下の通りであり、今年度も継続的に実施することとしたい。なお、IT人材育成について、経済産業省の審議会等に専門学校としての意見を訴えていくために新たにIT人材育成研究委員会を本会特別委員会として設置する。

- ①研修事業
- ②調査・研究事業
- ③イベント事業（ロボット競技会、ビジネスプロデュースコンペティション）
- ④その他、本会会員の充実のために必要と思われる事業

### 3. 常任理事会

各事業の方針や推進状況を連絡・調整し、本会の執行機関である理事会を補佐するための常任理事会を設置し、年間3回程度開催する。

メンバーは、理事長、副理事長、専務理事および常置委員会の長（常任理事）をもって構成する。常任理事会が担当する事業の内容は以下の通り。

- ① 会員・賛助会員の増加に関する事業
- ② 本会が行っている事業のPR
- ③ 各委員会で検討されている内容の連絡調整
- ④ その他、理事会から依頼された事業

### 4. 委員会

#### (1) 常置委員会

##### ① 財務委員会

本会の予算編成並びに決算、財務管理、またその他財務に関する強化を図るための活動を行う。以下は、主な検討課題。

- a. 予算編成並びに決算終了に関する事項
- b. 財務管理に関する事項
- c. 会計監査に関する事項
- d. その他財務に関する事項

##### ② 研修委員会

本委員会では、会員校の教育内容の充実、円滑な学校運営ができるような研修会を企画し、実施することとしたい。

##### ■オリジナル研修

本会オリジナルの研修は、夏期を中心に学校運営系3～4研修、IT技術系2～3研修、秋～冬に講演・視察各1研修を企画実施する。

- a. 会員の教育レベルの向上（高度化支援）
- b. 会員の教育の円滑化（教授法、新教育手法、カウンセリング等）
- c. 学生の学校選択トレンド情報の流通（募集関連強化）
- d. 学校経営情報の流通（管理者研修会）
- e. 委託事業などの成果の流通支援（専修学校フォーラム）

##### ■専修学校フォーラムの実施

例年通り、本会会員の強化を念頭に入れた経営的、教育的情報を提供することや文部科学省の委託事業の発表の場として、今年度末に専修学校フォーラムを東京で開催する。なお、経済産業省の後援に加え、今年度より文部科学省についても後援を申請することとしたい。

### ③ 調査委員会

昨年度に引き続き、「専門学校がとるべき対大学政策」をメインテーマとして、アンケート調査および視察調査を行う。なお、本年度は学生募集や広報といった経営的視点に焦点を当てて調査することとする。

また、NAB（国際放送機器展）などの世界レベルで開催されるイベントを調査し、会員の教育高度化に必要な情報源を特定する。

### ④ ロボット委員会

ロボット技術者の育成および専門学校の技術者教育の PR を目標として第17回全国専門学校ロボット競技会を開催することとしたい。課題である参加専門学校数およびチーム数の増加、協賛企業の開拓については、今年度活動の中で詳細の把握に努めるとともに、競技会そのものの再設計を含めた具体的な対応策構築および体制整備を行うこととしたい。

#### ■第17回全国専門学校ロボット競技会 概要案

日 程：平成20年12月22・23日

会 場：大田区産業プラザ

競 技：有線型ロボット対戦競技

自律型ロボット対戦競技（ハードウェア部門）

自律型ロボット対戦競技（ソフトウェア部門）

2足歩行ロボット競技

後 援（予定）：文部科学省、経済産業省、日本経済新聞社、日経 BP 社、  
テレビ東京、読売新聞社

### ⑤ ビジネスプロデュースコンペティション運営委員会

専門学校生が、専門分野からの発想で起業家になることを目標に、ビジネスプロデュースコンペティションを開催する。

学生が日頃培った知識・技術を発想と結びつけ、起業するためのプロセスとそのビジネスアイデアを発表することにより、以下のことを習得することを目的とする。

- a. 専門学校生の起業意識の定着および発想力の向上の場を提供
- b. 専門学校生と「実際の起業家」との交流をはかり職業観を養う
- c. 異分野の専門学校学生間の人的・教育的交流の促進

#### ■第5回 ビジネスプロデュースコンペティションの実施

ビジネスプラン募集期間：平成20年11月～平成21年1月予定

一次審査：平成21年1月中旬予定

BPC大会（プレゼン）：平成21年2月中旬の日曜日を予定

会 場：未定（決定次第協会ホームページより告知）

## (2) 特別委員会

### ① IT人材育成研究委員会（仮称）

今後のIT人材育成について、経済産業省の審議会等に専門学校としての意見を訴えていくために新たにIT人材育成研究委員会（仮称）を設置することとしたい。

具体的には、吉田理事長が委員として参画している「IT人材育成審議委員会（経済産業省所管）」にて、専門学校全体の意見を訴えていくためのシンクタンク的な役割を想定する。

## 5. その他の事業

### (1) 本会HPによる各種情報提供

本会では、ホームページを通じて専修学校関連の各種情報の積極的な発信に努めている。トップページアクセスは開設以来48万件を超え、社会の多くの方々にご覧いただけるページとなっている。会員校学校案内パンフレット請求システムなど一般向け情報提供サービスの普及に努めるとともに、会員の皆様にとっても使いやすいサイトとなるよう、リニューアルに努めていく。

### (2) メール等による各種情報提供

現在、インターネットメールを用いて、研修会等の開催案内、教育関連の各種イベントのご案内など各種情報の提供を行っているが、引き続きより良い情報をきめ細かく発信できるよう情報提供体制を整備する。

第5号議案 平成20年度 収支予算案

**平成20年度 収支予算案**

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位:円)

勘定科目	20年度予算案	19年度予算額	増減額	備考
<b>(収入の部)</b>				
会費収入	( 14,300,000 )	( 16,300,000 )	( △ 2,000,000 )	
年度会費収入	11,500,000	13,000,000	△ 1,500,000	
新規入会金収入	200,000	300,000	△ 100,000	
賛助会費収入	2,600,000	3,000,000	△ 400,000	
研修会参加費等収入	( 4,800,000 )	( 4,515,000 )	( 285,000 )	
研修会参加費等収入	4,800,000	4,515,000	285,000	
イベント開催協力金	( 6,100,000 )	( 6,870,000 )	( △ 770,000 )	
ロボット競技会開催費収入	6,100,000	6,870,000	△ 770,000	
雑収入	( 50,000 )	( 50,000 )	( 0 )	
雑収入	50,000	50,000	0	
<b>当期収入合計(A)</b>	<b>( 25,250,000 )</b>	<b>( 27,735,000 )</b>	<b>( △ 2,485,000 )</b>	
前期繰越収支差額	( 22,266,761 )	( 20,727,659 )	( 1,539,102 )	
<b>収入合計(B)</b>	<b>( 47,516,761 )</b>	<b>( 48,462,659 )</b>	<b>( △ 945,898 )</b>	
<b>(支出の部)</b>				
会議費	( 4,230,000 )	( 5,314,000 )	( △ 1,084,000 )	
総会運営費	570,000	360,000	210,000	
役員会運営費	1,600,000	1,734,000	△ 134,000	
委員会等運営費	1,860,000	3,020,000	△ 1,160,000	
部会費	200,000	200,000	0	
事業費	( 4,716,000 )	( 5,026,000 )	( △ 310,000 )	
研修会等事業費	3,329,000	3,047,000	282,000	
調査研究費	560,000	574,000	△ 14,000	
広報活動費	527,000	805,000	△ 278,000	
会員加入促進費	300,000	600,000	△ 300,000	
イベント開催費	( 7,494,000 )	( 8,553,000 )	( △ 1,059,000 )	
ロボットコンテスト開催費	6,100,000	6,870,000	△ 770,000	
ビジネスプロデュースコンパ開催費	1,394,000	1,683,000	△ 289,000	
事務委託費	( 11,000,000 )	( 11,000,000 )	( 0 )	
事務委託費	11,000,000	11,000,000	0	
雑費	( 50,000 )	( 50,000 )	( 0 )	
雑費	50,000	50,000	0	
予備費	( 26,761 )	( 19,659 )	( 7,102 )	
予備費	26,761	19,659	7,102	
<b>当期支出合計(C)</b>	<b>27,516,761</b>	<b>29,962,659</b>	<b>△ 2,445,898</b>	
当期収支差額(A)-(C)	△ 2,266,761	△ 2,227,659	△ 39,102	
次期繰越収支差額(B)-(C)	20,000,000	18,500,000	1,500,000	

## 第6号議案 任期満了による役員改選について

本会会則第17号第1項に基づき任期満了による本会役員改選を行う。なお改選は、会則第16条各項の定めにより行うこととする（資料 平成18・19年度役員名簿）。